

薬剤師

動画で
CHECK!

▶▶▶ 関保健所 丹下 紗希

配属歴

H28年 採用 環境管理課
H31年 生活衛生課

R 4 年 現所属

Q 現在の仕事内容とやりがいを教えてください。

現在は、病院や薬局、ドラッグストア、クリーニング店、美容所など様々な施設への立入検査や開設許可手続きなどを行っています。また、薬物乱用防止の正しい知識を普及するため、小・中学校での出前講座や商業施設などで啓発活動も行います。薬局や美容所等の開設を目指して、事業者と何度も打合せをして無事に開設できたときや、薬物乱用防止出前講座で子どもたちが興味関心を持って話を聞いているときなど、県民の方に直接働きかけができたときにやりがいを感じています。

Q 岐阜県庁を志望した動機を教えてください。

病気を患った方の薬物治療よりも、学生時代に勉強した環境や食品衛生など公衆衛生の知見から、広く県民の健康を守ることに興味があったからです。学生時代にインターンシップに参加し、現職の先輩方のお話を伺うなかで、行政薬剤師として、薬事・環境・食品といった幅広い分野で活躍できることを知り、岐阜県職員を志望しました。

Q 岐阜県の技術(専門)職員として働く魅力を教えてください。

岐阜県は、市街地から山間部までいろいろな地域があり、その土地の歴史的背景や県民の人柄にも違いがあります。また、技術職員といっても担当する業務は多岐にわたります。様々な業務において特性に応じた対応が必要になるため、異動するたびに多くの知識や経験を身に付けることができ、見識を広げることができるところが魅力です。



保健師

動画で
CHECK!

▶▶▶ 子育て支援課 宗宮 侑香

配属歴

H30年 採用 西濃保健所
R 2 年 現所属

Q 現在の仕事内容と一番印象に残っている業務を教えてください。

母子保健業務を主に担当しています。具体的には、妊娠から子育て期にかけて安心して生活、子育てできる仕組みや、出生後に受ける代謝異常や聴覚検査等の支援体制を整える等の仕事をしています。また出産や子育てだけでなく、予期しない妊娠などの相談の体制整備も行っています。一番印象に残っている業務は、「ぎふすくすく手帳」の作成と活用に関わったことです。小さく生まれたお子さんを持つお母さんが母子手帳と併せて使う、この手帳によって「救われた。」という声をいただいたことも印象的でしたが、手帳を通じて集まった同じ境遇のお母さん達を精神的に支えている県民の方と出会い、優しさにあふれる活動を間近で見ることができて、とてもうれしく自身の仕事への励みにもなりました。

Q 岐阜県庁を志望した動機を教えてください。

県民の疾病を予防し、生活の質を向上させるというところに、保健師の仕事の魅力を感じました。今ある仕組み、制度をよりよくしたいという思いから「県」の保健師に、そして自分の生まれ育った「岐阜県」で保健師になりたいと思いました。仕組みづくりだけでなく、どう仕組みを活用して支援するかなど県の保健師としての視点が求められるとき、特にやりがいを感じます。

Q 岐阜県の技術(専門)職員として働く魅力を教えてください。

保健師としての知識が、県民の健康問題を捉えるために活き、施策に反映されるところが、岐阜県の保健師として働く魅力です。それができるのは、行政職の幅広い知識やノウハウ、他の専門職や市町村担当者等の視点などを取り入れ、協働できる環境にあるからこそだと思います。



福祉

動画で
CHECK!



▶▶▶ 西濃子ども相談センター 鷺見 真祐加

配属歴

H27年 採用 希望が丘こども医療福祉センター
H30年 東濃子ども相談センター
R2年 現所属

Q 現在の仕事内容を教えてください。

子ども相談センター(児童相談所)の家庭支援課で、里親を支援する児童福祉司として相談援助業務に携わっています。里親委託の推進や、地域や関係者に向けた里親への理解定着活動、新規里親の開拓や里親登録者との交流など、里親に関する業務を行っています。児童相談所に寄せられる相談は、同じ種別の相談であっても困り感を抱える家庭それぞれに事情があり、様々なアプローチが求められます。家庭の事情を受け止めながら支援を考えていくために、多角的に物事を捉える柔軟さや専門的な知識が必要です。日々経験を積み重ね、研鑽していくことができる職場だと思います。

Q 今の仕事のやりがいを教えてください。

里親に預けられる子どもには、今までの生活環境から知らない家庭に行くという不安があります。当初は険しい表情をしていた子であっても、里親と里子の間に信頼関係や愛着形成ができてくると、その子の表情が柔らかくなり、様々な表情が出てくるようになります。そのような子どもの顔を見ると、その子にとって安心できる環境を与えることができたと実感でき、やりがいを感じられます。

Q 困難な事例があったときにどうやって解決されましたか。

様々な相談に対応する中で、苦慮し悩むことは多々あります。一人では困難な事案に対して考えが行き詰まることでも、同じ職場の先輩や上司に相談することで、自身の考えが整理でき、別視点からの意見で新たな対応策が出てくることがあります。日々、周囲の方に助けられながら困難な事例であっても解決することができています。



心理

▶▶▶ 東濃子ども相談センター 若岡 里奈子

配属歴

R2年 採用 飛騨子ども相談センター
R4年 現所属

Q 現在の仕事内容とやりがいを教えてください。

大学では心理学を専攻し、将来は子どもに関係する仕事をしたいと考えていました。大学院修了後、児童精神科のある医療機関に就職して働く中で、子ども相談センターの方と話す機会があったことから児童福祉の分野に興味を持ち、岐阜県庁の心理職を志望しました。現在の所属では、子ども相談センター(児童相談所)で子どもに関する相談に児童心理司として対応し、面接や心理検査を通して見立てを行い支援に活かしたり、必要に応じて心理教育等を行っています。児童相談所というと虐待対応のイメージが強いかもかもしれませんが、障がいや子育て、不登校といった相談にも対応しています。職場内で相談したり、関係機関の方と話し合ったりして支援を考えて実践した結果、子どもの表情が明るくなり、楽しげに話をしてくれるようになったときや、家族間でのコミュニケーションが改善されたという話を聞いたときなどにやりがいを感じています。

Q 岐阜県の技術(専門)職員として働く魅力を教えてください。

子どもや家庭への支援方法を考える際に、心理的側面からの見立ても必要とされるため、これまで学んできた知識や経験を十分に活かすことができます。また、児童福祉だけでなく、障がいや医療といった様々な領域で働くことができるという点も魅力です。

Q 働く環境についてはどう思われますか。

法律に基づいて業務にあたるため、心理学の知識以外にも学ばなければならないことはたくさんあります。しかし、困ったことやわからないことがあると、些細なことであってもすぐに相談にのってくださる上司や先輩が近くにいたため、非常に安心して働くことができます。

